

一般社団法人 シニアパートナーズ パートナー便り

発行：一般社団法人シニアパートナーズ 宮城県柴田郡大河原町字西桜町2-1ランドマークビル204
電話：0224-86-4234 FAX：022-774-2086

「親なきあと」 対策セミナー

今年になってから、障がいのある方を巡る社会問題の一つである「親なきあと」の対策に関するセミナー依頼が増えていきます。シニアパートナーズは設立当初より積極的に、この問題に取り組んでまいりましたので、私たちがこれまで実際に行ってきた対策や経験を配布する資料に落とし込んでお話しさせていただきます。

しかし、先日「親なきあと」問題ならではの難しさを知る機会がありました。そして、これからのセミナーの方向性を考えさせられるような出来事でもありました。4年ほど前よりお付き合ひのある、ご高齢の男性がおりました。その方は奥様に先立たれ、障がいを持つご長男と現在、お二人で生活をされています。以前より、ご高齢からなのか、お父様は白内障を患っておりました。しかし、息子さんの毎日のお世話があるということ、手術を先延ばしにされていたのだと思われ、その手術をやっと行っただというのでした。私は「息子さんはヘルパーさんが来てくれて面倒みてもらえたのですか」と質問したところ、穏やかな口調で「病院（手術）に同席させました」とのこと。それは、お父様と息子さんがおかれている生活環境や親の責任・愛情を感じる短い言葉でした。



僕らが成年後見人である理由 第三回

（ほくらがせいねんこうけんにんでいるわけ）
前回からのつづき
「おれに何かあったら（アパトの）大家さんに色々頼んであるから直しく」
その後、猫背気味で歩くAさんと私は手を繋ぎ入院手続を済ませ、病室へと案内されました。病室は4人部屋となっており、他の入院患者さんへの挨拶を済ませると、ある患者さんから「息子さんですか」と尋ねられました。

「おれに何かあったら（アパトの）大家さんに色々頼んであるから直しく」
その後、猫背気味で歩くAさんと私は手を繋ぎ入院手続を済ませ、病室へと案内されました。病室は4人部屋となっており、他の入院患者さんへの挨拶を済ませると、ある患者さんから「息子さんですか」と尋ねられました。Aさんは「彼氏だ」と私の方をみてクシヤクシヤの顔を更にくシヤクシヤにしてニヤけていました。病室が笑いに包まれ、Aさんは直ぐに他の患者さんと打ち解けてしまいました。不思議なパワーで、場を和やかにする女性なのです。そして、医師や看護師から手術と病状の説明等を一緒に聞くことができた。特に服用している血液サラサラ薬（抗凝固薬）の服用を止めるリスクの説明を丁寧に聞いていたのを覚えていました。Aさんも「どうにかなら、そんな（その）時は先生（医師）に任せよう」と手術の同意書にサインをしました。その後、私は手術まで一週間程度の検査期間もありましたので、毎日、面会に来ることを約束して、早めに退室したのでした。

編集後記



今回の会報誌には「キンモクセイ」と命名しました。花言葉の一つには「謙遜・謙虚」があります。春の桜は咲きだす前から注目され、蕾が膨らむ様子も逐一伝えられながら、開花を心待ちにされますがキンモクセイは、香りが漂ってきて初めて開花を認識することが多いですね。花の見た目は、決して桜のように華やかではありません。香りの強烈さに比べ、あまりに見た目が遠慮深いため「謙虚」という花言葉になったようです。一斉に咲いて一斉に散る様子から生まれた花言葉といえるでしょう。

次号へ
続く



